出前授業って楽しい

一輪車・理科実験…今年も全国で

へき地校を支援するベルマーク財団の「出前授業」が今年も全国で行われています。一輪車やミュージカルなど4種類を用意しています。ベルマーク預金を使って利用できる「教育応援隊」も活発です。走り方や科学実験ショーなど5事業があります。いつもの授業とは違う体験に、驚きや感動、歓声、笑顔が学校に広がります。

一輪車講習会

島根県との県境にある広島県北広島町の川迫小学校（沖田依子校長、30人）で9月16日、一輪車講習会がありました。「高度な技を覚えて来年の運動会で披露したい」と申し込みました。

講師は国内外の大会で実績のある小山美由紀さんと鈴木奈菜さん。2人はベルマーク財団の一輪車講習会で今年も各地を回り、児童のレベルに合わせた丁寧な指導に取り組んでいます。

小山さんは実技の前に児童の一輪車を見て回りました。前と後ろを間違えるとペダルがはずれて非常に危険です。サドルの高さが合っているかどうかを調整していきました。

2学期が始まったばかりの9月8日。熊野灘を望む三重県紀北町の町立海野小学校（米倉すが校長、18人）の体育館では、鈴木さんともう1人、須郷真弥さんの指導で、児童たちが地区合同運動会に向けて新しい技に挑みました。

大分県内の離島校を含む三つの小学校では9月2日～4日、講習会が開かれました。小規模校にとって、一輪車は、ふだんは体力の向上に役立ち、運動会などでは演技が華を添えます。

杵築市の大田小学校（平田初美校長、42人）では2年生以上の児童はほぼ乗ることができます。講師の小山さんと鈴木さんは「走りながら手をV字に広げるだけで技に見えます」とあいさつし、背筋を伸ばす乗車姿勢などを次々に紹介しました。

津久見港から渡船で25分。豊後水道に浮かぶ津久見市の保戸島は、周囲4キロ、約900人が暮らすマグロ遠洋漁業基地の島です。保戸島小学校（諫山義弘校長、4人）はそうした島の南西側の平地に中学校と隣接してあります。

小山さん、鈴木さんによる模範演技の後、準備運動を兼ねて全員で10回ジャンプをしました。「足を使ったスポーツは足の指の付け根部分が大切。一輪車をこぐときもこの部分を使います」

津久見市の堅徳小学校（平川英治校長、78人）では昇降口に一輪車50台が並んでいます。統廃合で要らなくなった一輪車を取り寄せ、パンク修理などをして増やしてきました。乗れない児童もいるため、「コツをつかみ、みんなの体力づくりに役立てたい」というのが先生たちの願いです。

中国山地の真ん中、岡山県真庭市の二つの小学校では7月21日と22日、秋の運動会に向けての講習会でした。21日は蒜山（ひるぜん）高原近くの二川（ふたかわ）小学校（稲岡三枝子校長、13人）で開かれました。翌日は市中心部の草加部小学校（後河肇校長、60人）です。一輪車に乗れる多くの児童に「もっとうまくなってほしい」と、申し込みました。

深い山あいにある宮崎県諸塚村の荒谷小学校（吉永英美校長、13人）では児童全員が一輪車に乗ることができます。鈴木さんと小山さんが訪れた7月15日の講習会には、隣接する荒川保育所の園児7人も参加し、見学しました。翌日は大分県竹田市の菅生小学校（宗岡良子校長、28人）です。同小は7月上旬、1人1台ずつ一輪車をそろえました。「少人数でも集団演技ができて、また、練習に応じた成果を体感できるのが一輪車の良さだと思います」と宗岡校長は話しました。

バランスをとって…＝大分県杵築市の大田小

科学実験ショー

月僧秀弥先生

北海道の札幌市立山の手南小学校（東間義孝校長、449人）で9月15日、科学実験ショーが開かれました。教育応援隊のひとつで、友愛援助事業に寄付をした学校を対象に開催校が選ばれます。講師に福井県坂井市の現役中学校教諭である月僧（げっそう）秀弥先生を招き、全児童が自分の手で、音のふしぎを体験しました。

音が鳴るのは「空気が震える」から。その仕組みを学んだあと、空気の震えを理解するために全員に実験装置が配られました。モールと紙コップ、小さな紙の3点です。紙を筒状に丸めて紙コップの切れ込みに差しこみ、くるくるとヘビ状に巻いたモールを逆さにしたコップの底の上に置きます。筒に口を当てて「おー」と声を出すと…。自分の声の音が紙コップをつたわり、モールがコップの上で震えだします。

目の前の「音のふしぎ」に児童たちは大盛り上がりです。

熊本市立三和中学校（有江禎裕校長）では9月4日、「科学実験ショー」が開かれました。ショーを招くためのベルマークを中心になって集めたのは、生徒会の厚生EC0委員会の生徒たちでした。講師は月僧秀弥先生。富山県の中学校教諭・新村宏樹先生のサポートを得て、2回に分けて計592人の全校生徒に、サイエンスの楽しさを伝えました。

月僧先生と新村先生のまるでマンザイのような息の合った掛け合いに乗って、この日のメーンイベント、光の実験です。月僧先生はこの日のために、約700枚の〝秘密兵器〟を自宅で手作りしてきました。トランプほどの大きさでその二つの角に小さな穴が開いていて、それぞれに分光板と偏光板が貼り付けてあります。

まずは分光板で光を覗いてみる。虹の七色に分かれて見えます。ここまでは生徒たちも「想定内」。でも、白熱灯、蛍光灯、LEDと、ライトの種類によって分かれる光の色や数が違うことを知るにつれて、ざわめきが波のように広がっていきました。同じ絵柄を撮った赤と緑と青のスライドを重ねるとカラーの映像になる。カードに描かれた絵をじっと見つめて突然裏返すと、裏の白い紙の上に補色の残像が残る。暗くした体育館の中で次々と光のマジックが繰り広げられていきました。

分光板でスペクトルを確かめる＝熊本市の三和中

ミュージカル

シンデレラと王子と一緒にご満悦＝宮城・気仙沼市

東京の劇団東少によるミュージカル「シンデレラ」公演が9月20日、宮城県気仙沼市でありました。東日本大震災の津波で多くが犠牲になった被災地では初めての開催です。

「復興にまい進している市民・子どもたちを勇気づけたい」と市教育委員会が主催しました。

会場の気仙沼市はまなすホールで約300人が観賞しました。へき地校指定を受けている市内の小学校のうち、14校の43人が招待され、生のミュージカル舞台に触れる機会が少ないだけに、2時間の公演に目が輝きます。

はまなすホールは海岸から直線で2・5キロ離れていますが、大震災では低地の川づたいに津波が迂回してさかのぼり、ホール正面の駐車場までつかりました。

市教委本吉教育センターの齋藤守所長は「市民を励ますとともに、地域の文化・芸術を活気づかせる事業をさらに進めたい」と話していました。

ミュージカルは8月29日、静岡県焼津市でも催されました。焼津市と市振興公社、ベルマーク財団の共催で、演目は劇団東少の「白雪姫」。県立藤枝特別支援学校と県立吉田特別支援学校の児童・生徒と、その保護者ら約600人が招待されました。

子どもたちは、歌や踊り、ドライアイスや音響、多彩な照明を使った演出に驚いたり、笑ったりしながら楽しんでいました。盛り上がったのは、7人の小人が客席の横から歌いながら登場した場面。一緒になって踊る子どもたちもいました。

ミズノ走り方教室

来年度で閉校となる静岡県浜松市の市立北小学校（徳増善幸校長、211人）で9月3日、教育応援隊「ミズノ走り方教室」が開かれました。児童たちは走り方のポイントを教わりながらさわやかな汗をかきました。

北小PTAでは、同校が2017年度から小中一貫校としてスタートするため、「最後の思い出」に応募しました。指導したのは、ミズノスポーツサービスで各種スポーツ教室を担当している西岡勝義さん。

児童たちは真っ直ぐに速く走るための基本を学びました。真っ直ぐに前を見る▽背を真っ直ぐにして走る▽ひざをよくあげて走る、ことを実践すれば速く走れることが練習を通じてわかりました。児童たちからは「走ることがこんなに楽しいとは思わなかった」「速く走れるイメージがつかめました」という声が聞かれました。

鋭くスタートダッシュ＝浜松市の北小

理科実験教室

へき地校援助のひとつで今年度最初の理科実験教室が伊豆諸島最大の島、東京都大島町で6月28日、開かれました。講師はNPO法人「サイエンスものづくり塾エジソンの会」（華井章裕代表）の7人。二つの小学校で理科の不思議な世界に2時間たっぷりひたりました。

まず午前に、島西部の元町港に近いつばき小学校（立木功校長）に児童と保護者合わせて80人ほどが、午後は島北部の岡田港に近いさくら小学校（宇山幸宏校長）に30人ほどが集まりました。

第1部「サイエンスショー」では液体窒素を使った実験が大人気でした。マイナス196度の液体窒素でパリパリに凍った花や葉っぱは、手でもむと簡単にくだけます。凍ったバナナで釘も打ちました。風船を浸けるとしぼみ、外に出すとゆっくりと膨らみました。子どもも大人も興奮していました。

第2部「ものづくり」では紙飛行機リング、ビー玉オルゴールなど五つのブースが設けられました。子どもたちはそれを順番に回り、もの作りに挑戦しました。

パリパリに凍った花にびっくり＝さくら小

ベルマークの「いま」伝えます

昨年11月にベルマーク財団の一員になり、2015年1月号からベルマーク新聞（季刊）を作り始めました。4月新学期号、7月夏季号、そして今回の10月秋季号で一巡しました。わずか8ページですが、財団ホームページとも連動し、ベルマーク運動のいまを伝える、中身の濃い新聞をめざしています。

大台達成校一覧には累計100万点以上を達成した参加学校・園を掲載しています。名前、所在地、点数が並ぶのですが、出そろうたびに「よく集めたなあ」と敬意を覚えながら編集しています。数字の向こうに、PTAの方々の地道な作業の光景が浮かびます。

「ベルマーク寄贈者」の欄にはベルマークを財団に寄贈してくださった方々の名前を掲載しています。個人、役所、グループ、団体、企業、労働組合、個人事業主、大学など広範囲にわたります。小・中学校からも届きます。学校としては参加していなくても、有志で集めて送ってくださっているようです。寄贈者の名前は1字ずつ赤鉛筆でたどりながら読むのですが、なじみの方々も少なくありません。

今号で、98歳の今も近くの小学校のベルマークの仕分けに協力する山梨県の幡野たいさんを取り上げました。50年間もベルマークと歩んできた方です。自分で始めたので途中でやめるわけにはいきませんから、と淡々と語ります。自宅2階の部屋でひとり黙々と仕分けする姿を想像すると胸が熱くなります。

財団の支援事業のひとつ、「出前授業」の様子もいくつか報告しました。学校の校庭や体育館から子どもたちの歓声が聞こえてきそうです。人気の一輪車講習会では、ある校長先生が「もっとうまくなりたいから先生教えてと言われても私たちの手には負えなくて。本当に助かりました」と話しました。子どもたちに喜んでもらい、先生方の役にも立てるのならうれしいことです。

9月、岩手、宮城、福島の被災地のいくつかの学校を財団職員が訪ねました。私も岩手の沿岸南部を回りました。詳細は紙面での報告に譲りますが、釜石や大船渡の夜の街で酒場のママさんたちから質問攻めにあいました。

「ベルマークって誰でもできるの？」（もちろんです、と私）「釜石の学校も集めてんの？」（相当集めてますよ）「カウンターにも回収箱置きますか」（うーん、酔客相手ですからねえ……）でも、家から持ってきてくれるかも）。飲みながらでもベルマークをPRし、取材するのが新聞編集長の務めです。

ママさんたちの店はいずれも津波に浸かり、やっと再建を果たしたばかりでした。それでもベルマークを気にかけてくれる、その心意気に酔いました。

（ベルマーク財団ベルマーク新聞編集長兼業務部長　米内隆）

友愛援助へ寄付いかが

ベルマーク財団は、東日本大震災の被災地や、紛争や貧困にあえぐ途上国の子どもたちのために「ベルマーク預金」を寄付する第18回「友愛援助」事業への参加を呼びかけています。

支援事業は公募で、財団が次の9事業を選びました。東日本大震災の被災地へは財団が直接支援しますが、海外8事業については、子どもたちの教育環境の整備・充実のために活動実績のある団体に資金を委託します。寄付の金額は問いません。複数事業への寄付も可能です。

①東日本大震災援助＝ベルマーク教育助成財団②アフガニスタンの子どもたちへの保健教育活動＝ジョイセフ③ラオスでの学校図書室開設プロジェクト＝ラオスのこども④フィリピンの子どもたちの植林・環境教育支援「子供の森」計画＝オイスカ⑤東ティモールエルメラ県・ディリ県の小学校における保健教育推進プロジェクト＝シェア国際保健協力市民の会⑥タイ国境ミャンマー難民キャンプでの教育・文化支援活動＝シャンティ国際ボランティア会⑦アフガニスタン寺子屋プロジェクト＝日本ユネスコ協会連盟⑧ガーナでの学校給食プログラム＝国連世界食糧計画WFP協会⑨ベトナム少数民族の子どもたちのための教育支援事業＝日本ユニセフ協会

▼申し込み要項、各事業の詳細は財団ホームページをご覧ください。

友愛援助申し込み

7月1日から9月1日までに申し込んだ分

▽北海道　本町小学校（札幌市東区）▽石川県　美川小学校（白山市）▽岡山県　勝山高等学校（真庭市）▽熊本県　三和中学校（熊本市西区）

3月1日から5月31日までに申し込んだ分

▽埼玉県　行田市立中央小学校▽東京都　綾瀬小学校（東京都足立区）▽神奈川県　稲荷台小学校（横浜市西区）▽愛知県　名路中学校（名古屋市瑞穂区）▽宝小学校（名古屋市南区）▽山口県　良城小学校（山口市）▽北海道　真栄中学校（札幌市清田区）▽山の手南小学校（札幌市西区）▽神奈川県　柏ケ谷中学校（海老名市）▽山口県　東岐波中学校（宇部市）

ビルマ語の絵本出版も

■シャンティ

タイ国境のミャンマー難民キャンプで、図書館を通じて読書推進活動と文化活動の拡充を支援している公益社団法人シャンティ国際ボランティア会（本部・東京都新宿区）が10月7日、支援に対するお礼と昨年度の活動報告のためベルマーク財団を訪れました。

来訪したのは事業担当の鈴木淳子さんと、ミャンマー（ビルマ）難民事業事務所・所長代行のセイラーさんとプロジェクトマネジャーの菊池綾乃さん。シャンティ国際ボランティア会は2000年から難民支援事業を開始し、図書館をコミュニティとしてカレン語の図書を出版したり、絵本を配ったりするなど、子どもたちに図書を通じた学習機会の提供にとりわけ力を注いできました。昨年にはベルマークからの支援金でビルマ語の絵本『知ったことではない』を千冊出版しました。

アフガン 増える寺子屋

■ユネスコ

アフガニスタンで寺子屋プロジェクトを実施した日本ユネスコ協会連盟から財団に、実績が報告されました。

同連盟のアフガニスタン事務所は2002年に開設されました。カブール県、バルワン県、バーミヤン県の3県全13地域を対象に、寺子屋の設立・運営や識字教室の支援活動をしています。開始から10年あまり、プログラムへの参加者は1万2千人を超えます。

民家を使って開かれる識字教室は、参加者の8割が女性です。当初、女性の教育に対して保守的だった村の男性たちですが、自らが識字者になることで女性への識字教育に理解を示すようになりました。「女性が安心して通うことのできる場所」であるとして、民家スタイルの寺子屋は今もアフガニスタンで増え続けているといいます。

寺子屋では、収入向上への活動として技術訓練も行っています。革製品や裁縫、ビーズ細工、イスタリフ焼きなど様々な訓練があり、展示販売をする建物を隣に建設した寺子屋もあります。地域の活動拠点をつくることで、人々が持続的に自分たちの地域を発展させられる環境を目指します。

ネパール寄付 4団体から

今年4月のネパール地震の被災地に対する支援として、ベルマーク財団はベルマーク参加団体にベルマーク預金からの緊急友愛援助寄付を呼びかけました。受け付けを9月末で締め切り、4団体から12万6162円の寄付が集まりました。財団の援助資金と合わせ、ネパールの乳幼児を中心とした子どもたちや母親ら女性への支援に乗り出している国際協力NGOジョイセフに託し、支援に活用します。

寄付したのは、北海道士別市の「やまびこネットワークこだま教室」（1万1千円）▽仙台市青葉区の仙台YMCA幼稚園（5千円）▽東京都江戸川区の清新第一中学校（6700円）▽横浜市南区の平楽中学校（10万3462円）です。

平楽中（中川豊弘校長）では、学校に必要なものを購入しようとベルマーク預金を貯めていましたが、友愛援助活動を通して役立ててもらおうと、ベルマーク集計を担当する生徒の厚生委員を通して各クラスに賛否をとり、預金全額を寄付することに決めたそうです。

4年前も、同様の手順を経て東日本大震災の被災地支援に当時の預金全額を寄付しました。

同校は、1999（平成11）年度に「国際理解教育実践推進校」になり、全校をあげて国際教育を学習しています。